令和８年度 広川町 未来を切り拓く人材育成事業　支援業務公募型プロポーザル

＜ 別 冊 資 料 ＞

広川町 未来を切り拓く人材育成事業
事業構想

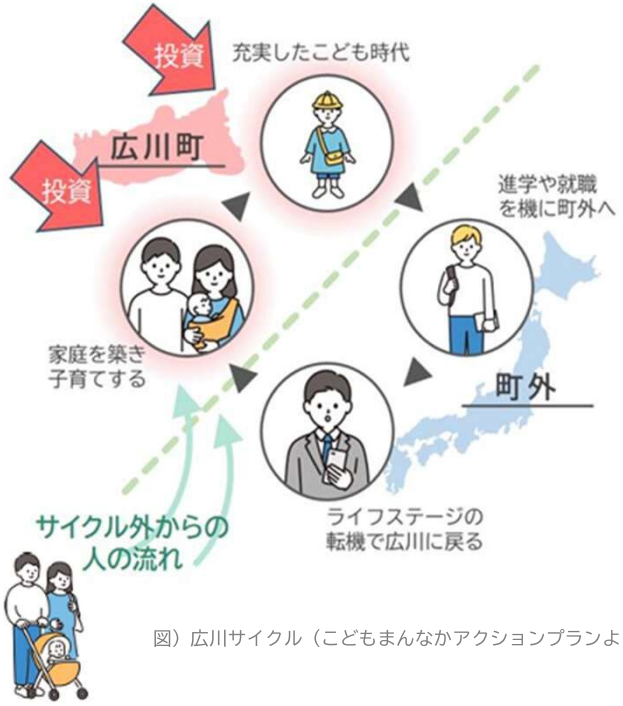
※企画提案書のご提出にあたり、事前に必ず確認をお願いします。

本資料は、令和8年度から着手する「未来を切り拓く人材育成事業」を通して、実現したい構想をまとめています。当町の事業構想をご理解の上で、提出をお願いします。

※本資料中に左図のようなアイコンと吹き出しを設けています。
これは、資料の補足コメントになりますので、内容と併せてご確認ください。

広川町教育委員会事務局
子ども課・生涯学習課

事業概要



図）広川サイクル（こどもまんなかアクションプランより）

0．こどもまんなかプロジェクトにおける「広川町の未来を切り拓く人材育成事業」の位置づけ

広川町こどもまんなかプロジェクトでは、人口減少社会においても地域の活力を維持するために、こどもへの投資を軸にした“人材の循環”を目指しており、「広川サイクル(左図)」と呼んでいる。こどもへの投資を起点に、人が育ち、人が戻り、人が集まり、また次の世代を広川町で育てる。このような好循環が、未来永劫続いていくことが理想であり、これを町の目指すべきと姿としている。

その中で、本事業は、町内のこどもの将来の可能性を広げる取り組みと位置づけ、広川サイクルの実現のための推進力にすることを目指している。

1．事業の趣旨

本事業は、学校教育における外部講師による「出前授業」を、専門のコーディネーターが企画・運営面から支援することにより、学習効果の向上、教員負担の軽減、地域人材の教育的活用を図るものである。

教科の学習目標に沿った外部人材の活用を推進し、児童の学びの質を高めるとともに、地域と学校が連携した教育体制の構築を目指す。

２．事業の構成

本事業は、以下の３つの柱で構成する。

1 出前授業の企画・実施支援

従来、総合的な学習の時間等で実施されることが多い出前授業を、教科（単元）の学習目標と連動させた授業へと発展させる。

- 各教科の学習目標に適した職業人を外部講師として選定
- 教員と協働し、授業内容の企画・調整・監修を実施
- 児童が「本物の職業人」から学ぶことで、理解の深化と学習意欲の向上を図る
- 外部講師との継続的な出会いを通じ、職業理解や職業観の形成につなげる

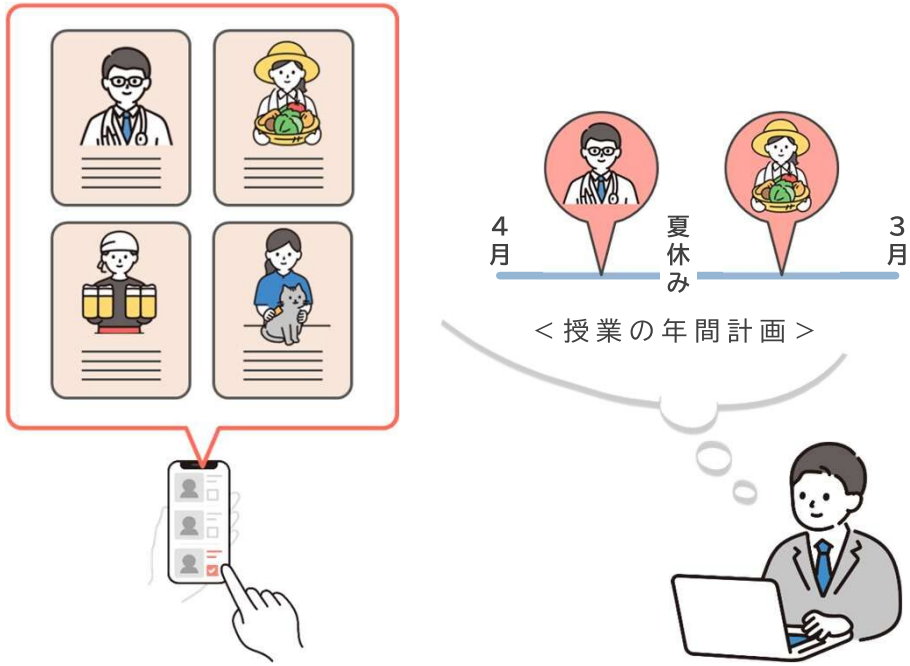
出前授業には多くの準備工数が必要であり、担当教員の負担が大きいことから、専門コーディネーターが企画・調整業務を担い、教員負担の軽減と授業の質の向上を両立させる。

2 外部人材プラットフォームの整備

本事業でコーディネートした授業内容や外部講師情報を蓄積し、町内教員が閲覧・活用できる外部人材活用プラットフォームを構築する。

- 外部講師のプロフィール、対応可能な授業、実施事例をデータベース化
- 年間指導計画の段階で、計画的に外部人材を授業に組み込むことが可能
- 担任が容易に外部人材を活用でき、学校と地域の連携が促進される

また、町が現在実施している「地域学校協働活動推進員」による授業支援ボランティア（裁縫・ミシン・調理実習等のマンパワー支援）についても、性質は異なるものの、プラットフォーム上で整理し、学校が必要に応じて活用できる仕組みとして統合を図る。

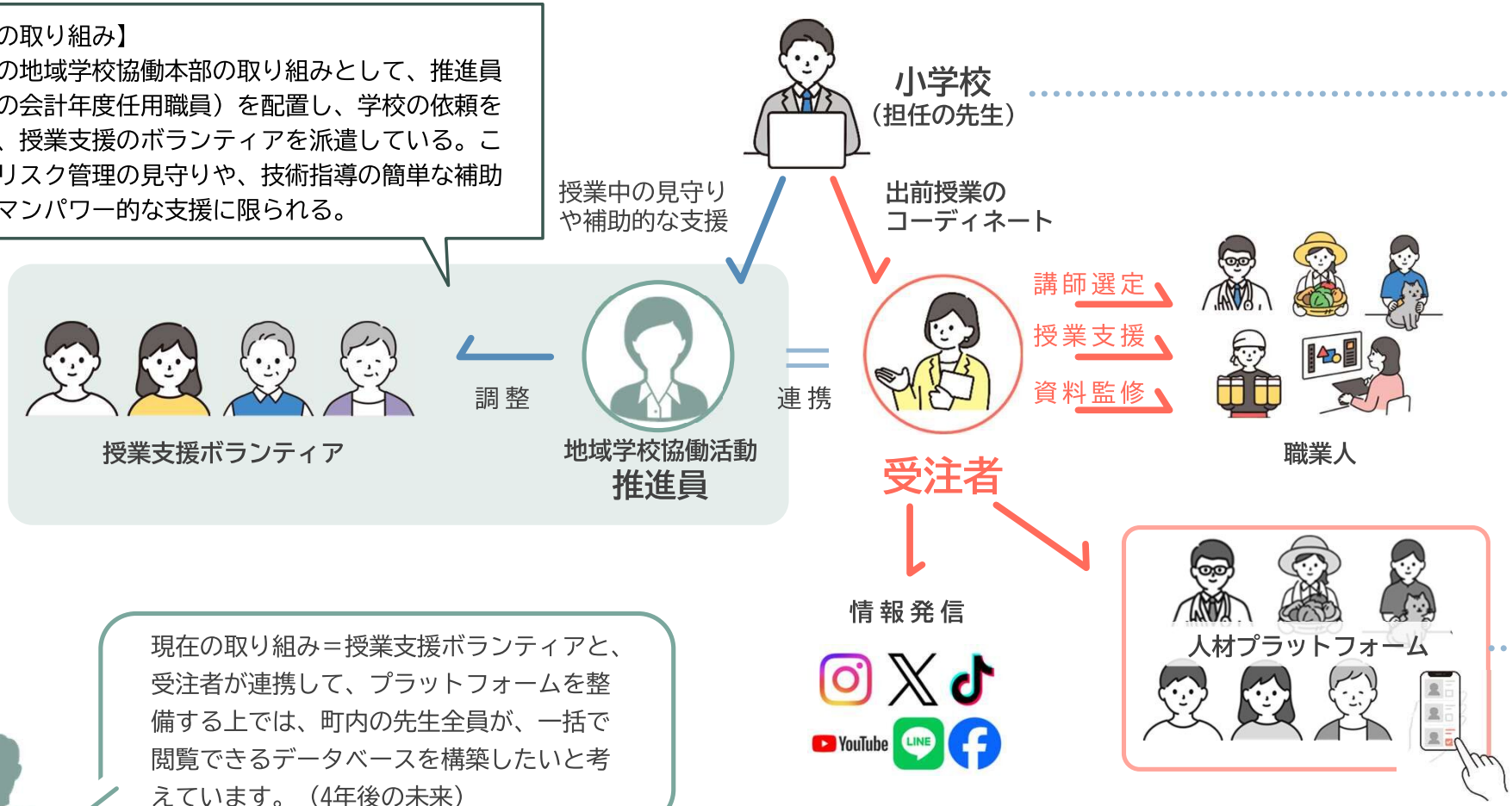


本事業は、３～４年の構想です（後述）。
初年度は、プラットフォームの設計に着手し、複数年かけて情報の蓄積を考えています。

事務局

2 外部人材プラットフォームの整備　本事業をきっかけに実現したい構想

【現在の取り組み】
当町の地域学校協働本部の取り組みとして、推進員（役場の会計年度任用職員）を配置し、学校の依頼を受けて、授業支援のボランティアを派遣している。これは、リスク管理の見守りや、技術指導の簡単な補助など、マンパワー的な支援に限られる。



現在の取り組み＝授業支援ボランティアと、受注者が連携して、プラットフォームを整備する上では、町内の先生全員が、一括で閲覧できるデータベースを構築したいと考えています。（4年後の未来）

3 戦略的広報

本事業は、「開かれた学校」「地域とともにある学校教育」を体現する取り組みであり、広川町の特色として発信できる可能性を有する。

そのため、事業の構築過程から積極的に広報を行い、

- 町の教育施策の認知度向上
- 町外からの関係人口の創出
- 地域資源を活かした教育のブランド化

につなげることを目的とする。

事務局

上記は、例で挙げています。
すべてを網羅する必要はありません。
効果的なツールをご提案いただければと思います。

事業構想　令和８年度からのスケジュール

本委託事業は、令和８年度からスタートし、３年間（※）をかけて、全町立小学校での定着を目指す。
とりわけ上広川小学校では、３つの小学校の中でも重点的に展開して、当校の特色として位置づける。
令和８年度は、「未来を切り拓く人材育成事業」の土台作りの年として、事業を進める。

令和８年度の基本スタンス
＜土台作りの年＞
※学校・教員の「未来を切り拓く人材育成事業」の受け入れ体制を整える

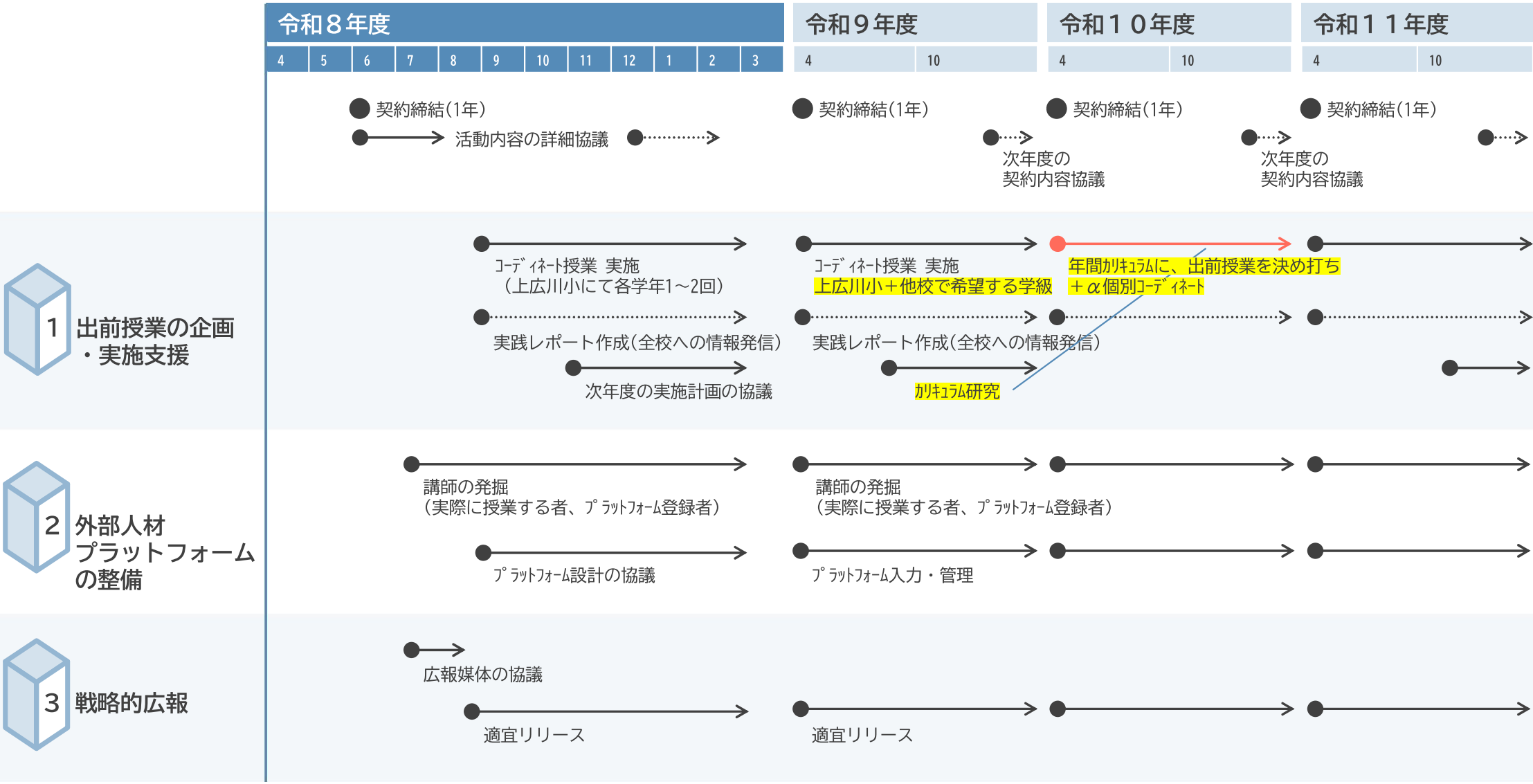
- 上広川小学校もモデル校として先行**（各学年で１～２回 コーディネート授業を試行）**
- コーディネート授業の内容、こどもたちの反応、担任や外部講師の感想、実施までの過程などを教員に丁寧に届ける。
  →先生たちの興味・関心を高める
- 事業の効果測定（アンケート調査）を並行し、教育的効果を数値化・可視化する。→説明用・外部発信用

（※）本事業は、上広川小学校から着手し、全小学校での事業の定着を３年で目指す。その後は、ストックした資産（人材プラットフォームや授業ノウハウなど）を活用し、町の自走で事業を継承していきたいと考えている。ゆえに４年目は、委託事業→町自走の移行期と位置づける。

町の事業構想は、４年間で全小学校での定着（４年目は、町単独で行うための移行期）を考えていますが、
本プロポーザルの公募事業は、令和８年度のみの単年度契約になります。
これは、令和８年度から事業を開始し、事業を実施しながら、また現場（小学校）の声を聞きながら、その後の計画を修正する必要があると考えているためです。
本プロポーザルでは、町と一緒に事業を推進してくださるパートナーを選定し、毎年度協議をしながら進めていくことを考えています。
ゆえに、契約自体は単年度ですが、企画提案については、町の構想に合わせて３年間の展望をお示しください。

事務局

事業構想　令和８年度からのスケジュール



事業構想　令和８年度からのスケジュール

【土台つくり期】
上広川小をモデル校に設定
コーディネート授業を各学年１回以上
事業の様子を各学校にﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

【実践(前)期】
上広川小は継続
＋中・下小でも希望学級
でｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ授業を実施
R10上広川小のｶﾘｷｭﾗﾑ研究

【実践(後)期】
上広川小では年間ｶﾘｷｭﾗﾑ
と連動した授業を展開
＋中・下小でも希望学級
でｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ授業を実施

【移行期】
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ機能を地域学
校協働本部にシフト
委託→町自走へ

令和８年度											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

令和９年度	
4	10

令和１０年度	
4	10

令和１１年度	
4	10

- 契約締結(1年)
- 活動内容の詳細協議
- 次年度の契約内容協議

1 出前授業の企画・実施支援

- ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ授業 実施（上広川小にて各学年1～2回）
- 実践レポート作成(全校への情報発信)
- 次年度の実施計画の協議
- ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ授業 実施 上広川小＋他校で希望する学級
- 年間ｶﾘｷｭﾗﾑに、出前授業を決め打ち ＋α個別ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ
- ｶﾘｷｭﾗﾑ研究

(※)

事務局

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ授業は、担任のニーズを受けて講師や授業内容を作り上げることに、特色を見いだせると考えますが、年間の授業計画を立案する時点で、「どの学年の、どんな科目で、どんな内容の出前授業をｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄするのかを決めて、次年度を迎えることで、計画的に、たくさんの職業人と出会わせることができると考えます。これを「ｶﾘｷｭﾗﾑ連動型」と呼び、上広川小学校で先行的に実施したいと考えています（R10年度試行）。

小学校情報（３つの町立小学校）

〈上広川小学校〉

上広川小学校		
学年	学級数	児童数
１年	１クラス	２０名
２年	１クラス	２２名
３年	１クラス	２８名
４年	１クラス	１９名
５年	１クラス	２９名
６年	１クラス	２７名
合　計	６クラス	１４５名

〈中広川小学校〉

中広川小学校		
学年	学級数	児童数
１年	３クラス	９５名
２年	３クラス	８６名
３年	４クラス	１０６名
４年	４クラス	１１６名
５年	４クラス	１２２名
６年	４クラス	１２４名
合　計	２２クラス	６４９名

〈下広川小学校〉

下広川小学校		
学年	学級数	児童数
１年	１クラス	３２名
２年	１クラス	３０名
３年	２クラス	４０名
４年	２クラス	３７名
５年	２クラス	３７名
６年	２クラス	４２名
合　計	１０クラス	２１８名

学級数、児童数は、R8.3.24時点の見込み。学級数は交流学級のみの数字です。

事業構想　【事業の波及について（期待する主の効果・副次的効果）】

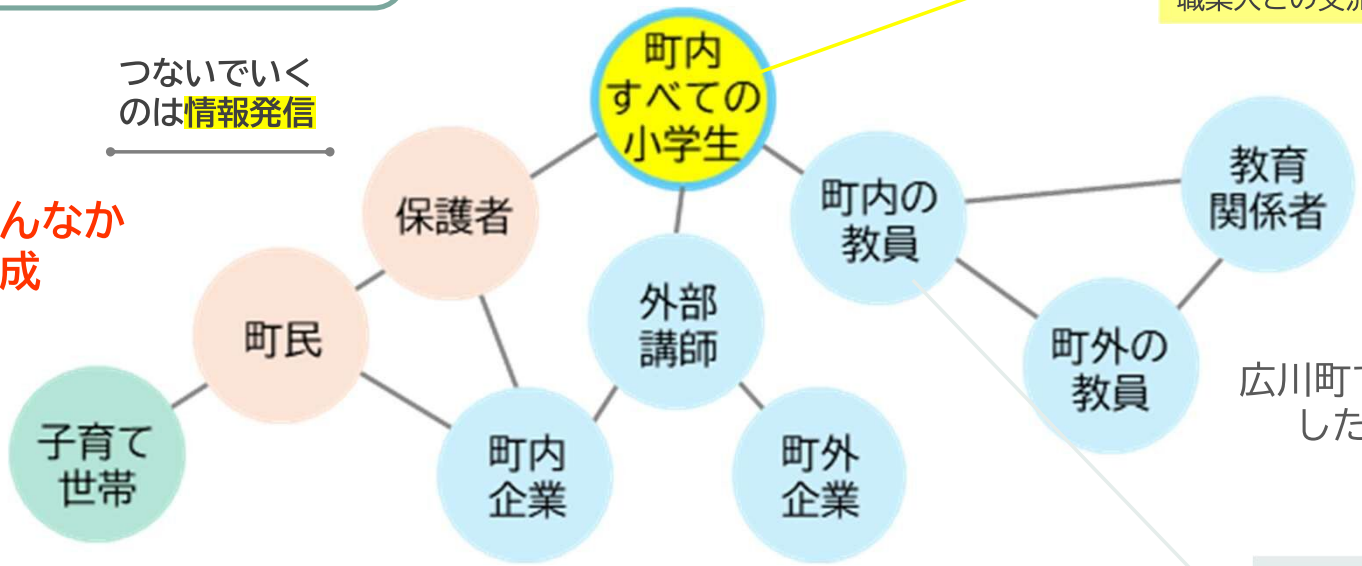
事務局

本事業の主眼は、出前授業というカタチで職業人との出会いや職業理解、職業観の形成を図ることですが、３つの柱を戦略的に展開することで、「こどもまんなかの広川町の醸成」や協力者・関係人口の創出など、広川町全体の活性化につなげたいと考えています。

出前授業
（コーディネート授業）

〈主〉
郷土への愛着形成（シビックプライド）
勉強への動機付け
将来の選択肢の拡大・職業観の醸成
職業人との交流

つないでいくのは情報発信



こどもまんなかの醸成

広川町への関心

広川町で先生をしたい！

移　住

地域活性化

協力者
関係人口の創出

〈副〉
教員のスキルアップ
働き方改革
チャレンジ精神